

ナス葉の特徴的な病害虫



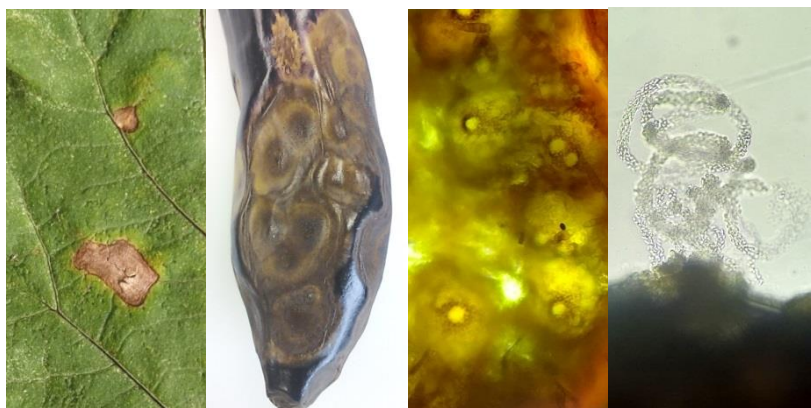
1. ナスうどんこ病

葉に葉脈に囲まれた多角型の退緑病斑を形成していました。一見、べと病のようですが、葉裏にカビは見えません。セロハンテープを張り付けて採取し顕微鏡で観察すると、うどんこ病の分生子の連鎖が確認できました。ちなみに国内ではナスにべと病の発生は知られていません。



2. ナス褐色円星病

葉に、径数ミリの周縁褐色、中心部灰褐色の大きさの揃った病斑を生じ、多数の病斑が形成されると落葉します。葉裏には、トマト葉かび病より、やや毛足の短いビロード状のカビを生じます。このカビをセロハンテープで移し取って顕微鏡で観察すると、円筒形の分生子が見られます。



3. ナス褐紋病

葉に褐色円形で周囲に濃褐色の縁取りがある病斑を生じ、拡大すると円形～不整形の輪紋病斑になります。拡大した病斑の中心部は薄く破れやすくなります。果実には褐色円形のくぼんだ円形病斑を形成します。球形の分生子殻が形成され蛇玉花火のように分生子塊を放出します。



4. テントウムシダマシ類

葉裏から表皮を残して食害し、棚田状の食害痕を残します。果実表皮にも同様の食害痕を残しますが、食害から時間が経つと、食害部分の萎縮やカビの発生により、明瞭な棚田状の外観は失われていきます。成虫は全身に細かい毛があります。幼虫の体色はニジュウヤホシテントウが灰白色、オオニジュウヤホシテントウが黄色（刺は黒色）です。